

漁況予報 いわし

第160号

2010年7～8月漁期
(2010年7月14日発行)

＝ 予 報 ＝

＝ 概 況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、5月は104トンで大漁だった前年(268トン)は大きく下回ったものの、ほぼ前年並み(過去5年平均:96トン)の漁獲量でした。つづく6月の漁獲量は12トン(速報値)で、前年(14トン)および前年(17トン)をやや下回る漁獲量でした。

魚体は9～13cm台のヒラゴ～小羽マイワシが主体でした。これは2010年生まれの0歳魚が主体と考えられます。

佐島地区のまき網は、6月に大羽マイワシ主体の漁獲があり、鮮魚として出荷しました。また6月上旬には、餌用のカタクチイワシに混じてヒラゴが漁獲されました。

3～6月のシラス船びき網によるマシラス(マイワシの仔魚)の漁獲割合は5.7%で、前年(3.5%)を上回ったものの前年(8.0%)を下回る水準でした。

【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、5月は725トンでほぼ前年並み(767トン)だったものの前年(813トン)をやや下回りました。つづく6月の漁獲量は489トン(速報値)で、前月同様に前年並み(502トン)でしたが前年(672トン)を下回りました。

魚体は、11～12cm台の小型～大型成魚が主体で、8cm台の未成魚も混獲されました。

佐島地区のまき網は餌イワシとしての漁獲が継続しましたが、6月にはマイワシに漁獲努力が向けられたこともあり低調となりました。

【しらす】

4月に本格化した相模湾のシラス漁は、5月上旬までは全域で好漁が継続しましたが、同月中旬から漁獲が落ち込み、同月下旬以降は全域で不漁となりました。

標本船による漁獲量は、5月は前年および前年をやや上回りましたが(前年比1.2倍、前年比1.4倍)、6月は前年比0.2倍、前年比0.3倍と極めて不漁で推移しました。

当所が実施した卵稚仔プランクトン調査による、6月の相模湾のカタクチイワシ卵の分布量は844粒/曳網であり、前年(655粒/曳網)および前年(762粒/曳網)を上回りました。

【まいわし】

今漁期は、2010年生まれのヒラゴ～小羽マイワシが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラス漁獲状況から、定置網を主体に約200トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網

【かたくちいわし】

今漁期は、小型成魚(10～11cm台)および大型成魚(12～13cm台)が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は5～6月の定置網漁獲量から、定置網を主体に約400トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網

【しらす】

今漁期は、6月以降に相模湾周辺で発生したカタクチシラス(カタクチイワシの仔魚)が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、6月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布量から、約160トンと予測されます。

過去5年の7・8月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

